

埼玉県自治体保健師のキャリアラダー（専門的能力に係るキャリアラダー）自己チェックリスト

										自己評価	コメント欄	他己評価
										年 月 日		年 月 日
										キャリア レベル A－	伝えたいこと(力を入れたことなど)を記載	
1 対人支援活動	1－1. 個人及び家族への支援	☐	個人・家族支援に必要な基礎知識、管内情報を把握している。	☐	個人・家族の健康問題をアセスメントし、適切な保健指導や生活支援が展開できる	☐	複雑な事例に対応できる	☐	多問題ケースや医療依存度の高いケースのマネジメントができる	☐	複雑な事例への対応についてスーパーバイズができる	
		☐	指導を受けながら対象者の潜在的ニーズに着目し、健康・疾病・障害の各段階に応じた働きかけができる	☐	指導を受けて複雑な事例等をアセスメントし、適切な保健指導・生活支援が展開ができる	☐	事例の課題を整理した上で緊急性を判断し、事例に応じた支援ができる	☐	潜在的な健康課題も明らかにし、当事者自らがその解決・改善に向けて取り組めるよう支援できる	☐	個別支援に必要な関係者チームの育成ができる	
		☐	担当する事例の対象及び家族について、身体的・心理的・社会的状況を多面的にアセスメントし、支援計画を立てて支援できる	☐	対象の潜在するヘルスニーズに着目し、健康・疾病・障害の各段階に応じた予防的働きかけができる	☐	個別の事例の支援に必要な関係者チームを編成し、対応ができる	☐	予測される健康課題を把握し、必要な支援を実践できる			
		☐	担当業務に関わらず、母子・成人・高齢者・障害者・精神・難病・感染症・歯科保健等の事業に関する基本的な概念や知識を理解する	☐	必要に応じて、関係職種や関係機関を選択連携し、調整(場の設定を含む)ができる	☐	主体的に事例を通して地域の社会資源を利用するために関係者と調整することができる	☐	事例検討会でファシリテーターを担える			
2 地域支援活動	1－2. 集団への支援	☐	健康教育・集団指導の概要が理解できる	☐	住民の主体的な活動を育成・支援することができる	☐	集団が効果をあげられるような活動支援ができる	☐	集団への支援を通して、地域の潜在的な健康課題も明確化できる	☐	集団が主体的な活動を展開できるよう支援方針を見直すことができる	
		☐	集団に対する健康教育の一部を実施できる	☐	集団(若しくは対象群)の潜在的ニーズに着目し、健康・疾病・障害の各段階に応じ、予防的働きかけができる	☐	健康課題によっては、新たなグループ化・組織化を立ち上げることができる	☐	予測される健康課題を把握し、必要な支援を実践できる	☐	ソーシャルキャピタルの醸成を図ることができる	
		☐	集団に対する定期的な健康教育が実施できる					☐	課題解決のための事業計画が立案できる			
		☐	指導を受けながら集団(若しくは対象群)の潜在的ニーズに着目し、健康・疾病・障害の各段階に応じた働きかけができる									
3 事業化・施策化のための活動	2－1. 地域診断・地区活動	☐	地域の保健活動計画が理解できる	☐	担当地域(業務)に関する既存資料や衛生統計等から情報を収集できる	☐	担当地区のみならず、地域の情報(既存資料、衛生統計)を整理でき、健康課題を明らかにできる(地域診断)	☐	情報の分析において、全国的動向や経年的な情報を含めて検討することができる	☐	分析した結果を関係機関と情報共有し、目的や用途に応じて応用できる	
		☐	管内の保健医療福祉に関する社会資源の所在地や交通経路、連絡方法を理解できる	☐	周囲と相談しながら、担当地区の健康課題、対象のヘルスニーズを生活上の問題として、あるいは家族や社会関係の中で捉え理解を深める上で必要な情報を収集できる	☐	健康課題の解決に向けた事業の検討及び企画・立案ができる	☐	潜在的な健康課題の解決に向けた事業の企画・立案・実践ができる	☐	潜在的なものを含め地域の健康課題を明確化し、施策の企画・立案ができる	
		☐	自分の担当地区(業務)の情報から、健康課題を発見することができる	☐	自分の担当地区(業務)の情報と担当地域(業務)に関する既存資料や衛生統計等から、健康課題を明らかにできる	☐	情報の緊急度・重要度について後輩保健師に助言できる					
3 事業化・施策化のための活動	2－2. 地域組織活動	☐	業務遂行にあたり住民や関係者と協力することが重要であることを理解する	☐	必要に応じて自助グループやボランティアグループ、NPO等とコミュニケーションを持ち、協力を求めることができる	☐	住民の主体的活動を支援し、自主グループ活動を実施できるよう働きかけることができる	☐	地域に不足している社会資源を関係機関と協力して開発できる	☐	地域の資源をつなぎ、ネットワークの新規立ち上げ及び必要な連携ができるよう支援することができる	
		☐	担当地区の住民の自助グループやボランティアグループ、NPO等の活動の状況について把握する	☐	最適なサービスを総合的に提供するために、不足する領域の人的社会資源開発の必要性を理解できる	☐	住民がグループ活動をするために必要な社会資源を活用できるよう働きかけることができる					
3 事業化・施策化のための活動	2－3. ケアシステムの構築	☐	担当事例に必要なサービス調整のために、指導を受けながら、必要に応じて関係職種や関係機関に連絡調整できる	☐	交渉・折衝すべき事項や論点を理解し、実践できる	☐	地域ケアシステムを構築するために関係機関との連絡会議等にメンバーとして参画できる	☐	既存組織や社会資源の活動を評価し、効果的な連携が図れるよう調整することができる	☐	地域の関係機関と協働し、地域の健康課題や特性に応じたケアシステムの構築について、施策立案できる	
		☐		☐	担当する事例について、必要に応じて関係職種や関係機関を選択し、連携、調整ができる	☐	連絡会議等において、地域の健康課題や地域特性について共有することができる	☐	関係機関との連絡会議の企画・運営メンバーとして参画できるとともに、主体的に企画運営できる			
3 事業化・施策化のための活動	3－1. 事業化・施策化	☐	管内の保健計画等と自分の事業との関連性について説明できる	☐	住民のヘルスニーズ(担当地域の健康課題)を踏まえ、活動の目標実施計画を立案できる	☐	事業計画の内容を資料化し、組織内に情報の共有ができる	☐	自治体の保健計画等および地域のニーズに沿った事業計画を優先度を考慮して立案できる	☐	自治体に必要な保健計画等の策定に参画することができる	
		☐	所属自治体の施策体系や財政の仕組みについて理解できる	☐	保健等の各種事業を総合的に捉え、その内容を計画立案に役立てることができる	☐	地域の健康課題の緊急度・重要度を判断し、係内の事業の企画や実施に反映させることが提案できる	☐	事業のねらいや成果の見通しについて根拠資料を作成し、説明できる	☐	研究等で得られた成果を計画策定等に反映できる	
		☐	担当事業の法的根拠や関連施策について理解し、自分の担当業務の位置づけがわかる	☐	保健等の各種事業を体系的に理解するとともに、各事業におけるチームの一員として、保健師の役割を果たすことができる	☐	係内の事業の成果や評価等をまとめ、組織内で共有することができる					
		☐	担当事業の目標・活動方針・運営方法等を把握し、各事業における保健師の役割が理解できる	☐								
		☐	自分が関わっている事業において、チームの一員として分担した役割を果たすことができる	☐	自分が関わっている事業が円滑に実施できるよう、保健師としての役割を果たすことができる							

<評価>
A:できる
B:概ねできる
C:自信がない
D:未経験

